

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	21663
事業名	国内観光振興費					
評価担当課	所属名	経)観光・MI 観光・MICE				
	課長名	瀬川 裕佳子	担当者名	大村 卓也	電話番号	011-211-2376
施策名	主	-				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ● その他				
	目的	短期	札幌市内での総観光消費額: 令和4年度7,000億円(札幌市観光まちづくりプラン) 年間来客数: 令和4年度1,800万人(札幌市観光まちづくりプラン)			
		長期	観光プロモーションの実施により、国内観光客の誘客を図ることで年間来客数を増加させる。			
	取組内容	① 観光客誘致プロモーション 札幌市国内観光プロモーション実行委員会へ負担金を拠出し、札幌の観光振興を図るため、民間事業者等とも連携し、道内外に向けたプロモーションを実施した。 ② 教育旅行誘致 教育旅行を誘致するため、教育現場で求められている「SDGsを学ぶ体験型プログラム造成」、市内で教育旅行を実施する学校を対象とした「貸切バス経費助成」を実施した。 ③ ワークーション発信				
実施結果	① 観光客誘致プロモーション 「冬割」事業等の誘客施策について、各種メディアを効果的に活用しプロモーションを実施した。 ② 教育旅行誘致 ・アフターコロナを見据えた教育旅行誘致に繋げるため、SDGs体験型プログラムを造成した。 ・訪問先変更等が多発していたことから、コロナ禍における誘致策として、バス料金の助成を実施した。 ③ ワークーション発信: 札幌でのワークーションのイメージ波及を図る特設WEBサイトを製作した。					
事業実施における工夫点	観光客誘致プロモーションについては、実行委員会の構成メンバーを中心に民間の観光関連事業者等と連携し、WEBやSNSをはじめ各種メディアを効果的に組み合わせ活用し、テーマ性や話題性のあるプロモーションに取り組んだ。					
対象者	国内一般消費者及び観光関連事業者	開始	0 年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等	なし					
他都市の状況	全国的に新型コロナウイルス感染症からの回復のため、各都市がキャンペーンや観光需要喚起策等の観光客誘致の取組を実施している。ワークーションや教育旅行についても、各都市で同一の事業を実施しており、都市間・地域間の競争が一層激しくなっている。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	310,925	155,000	66,664	136,000	
うち特定財源	292,939	155,000	66,664	93,000	
人工	1.2	1.4	1.4	1.4	
人件費	8,640	10,080	10,080	10,080	
計(事業費+人件費)	319,565	165,080	76,744	146,080	
事業費の内訳	令和3年度決算	①国内出張旅費 1,094千円 ②札幌市国内観光プロモーション実行委員会負担金 31,800千円 ③ワークーション発信(委託費、報酬費、賃借料) 8,982千円 ④教育旅行誘致(委託費、報酬費、需用費、負担金) 24,788千円			
	令和4年度予算	①国内出張旅費 1,200千円 ②札幌市国内観光プロモーション実行委員会負担金 31,800千円 ③ワークーション発信 10,000千円 ④教育旅行誘致 93,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	年間プロモーションの回数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	3	5	4	4	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	年間来札観光客数(国内)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	569万人	1,416万人	788万人	1,450万人	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	コロナの影響により、プロモーション等を中止した期間もあり、例年どおりのプロモーションとはいかなかったが、新たな旅のスタイルによる誘客を図るための「ワーケーション発信事業」や、コロナ禍で激減した教育旅行を誘致するための「貸切バス助成事業」、アフターコロナを見据えた教育旅行向け「SDGsプログラム造成」等、様々な側面から、コロナ禍に対応した施策を実施することができた。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	道内だけでなく、道外に向けても、WEBやSNSを中心に効果的なプロモーションを実施することができており、事業規模は適切であると考えられる。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	札幌市国内観光プロモーション実行委員会において、民間事業者とも連携したプロモーションを実施する等、効果的、効率的なプロモーションが実施できている。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	コロナの影響により、国内観光客が激減する中においても、新たな切り口であるワーケーションの視点でのプロモーション実施や、教育旅行誘致の強化等、コロナ禍に応じたプロモーションを実施することにより、対象者のニーズに応えることができた。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	① 観光客誘致プロモーション: 令和2年度と比較し、令和3年度については、国内観光客は回復傾向ではあるが、今後も効率的・効果的なプロモーションを実施し、例年水準まで回復させる必要がある。 ② ワーケーション発信: ワーケーションについては、「観光客誘致」だけではなく、「人材誘致」「企業誘致」等の手段に活用可能であることがわかったため、今後は、他部署とも連携して実施する必要がある。 ③ 教育旅行誘致: 令和3年度に、教育旅行による来札が激減したため、例年水準まで回復するよう、引き続き、教育旅行誘致を強化する必要がある。				
前回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	ワーケーションについては、他部署へ予算を一部移管し、「人材誘致」等の側面からも、事業を実施している。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	観光需要回復に向けて、ワーケーションや、教育旅行誘致強化等、新たな側面からも事業を実施し、多くの人に、札幌の観光魅力を発信することができた。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 現状維持 <input checked="" type="radio"/> 休止・廃止 貸切バス助成(教育旅行)については、コロナ禍で行先変更や中止、延期等が多発していた時期は有効であったが、アフターコロナにおいては、本事業をきっかけに行先変更等が起こりにくくなるため、令和5年度については、事業を実施しない。			
	予算	<input type="radio"/> 拡充 <input type="radio"/> 現状維持 <input checked="" type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> その他 令和5年度は、教育旅行貸切バス経費助成事業を実施しない。		見直し効果額	87,000 千円